

入江さちえ

# 後援会だより

後援会事務所

VOL.49

753-0231

山口市大内氷上3丁目4-25

TEL 083-923-9703

FAX 083-924-1263

http://www.irie21.com

発行人 栗屋 三郎



(象頭山のこいのぼり H29. 4. 16)

後援会 会長 栗屋 三郎

その後も、皆様方にはお元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

私事で恐縮ですが、昭和36年秋、入江さちえさんの実父、中野正さん、当時は大内町議会の議員さん、その後山口市議会の議員、議長もされた方ですが、その方のお世話で仁保川のすぐそばの土地を買い、そこに家を建てました。土地は、遊水池のようなところですから1坪500円、埋め立てをしないと使えませんが、地形の都合で180坪買いました。

結婚したばかりの30歳で家を建てるとはおこがましいのですが、11坪ばかりの家です。11坪といえば、農家の納屋でも、もっと広いでしょうが、それでも便所も風呂もついています。風呂は五右衛門風呂です。

当時の仁保川は、きれいな水のせせらぎでした。鍋や茶碗を川に入れっぱなしにしておけば、流れや時には小魚も集まっ洗ってくれました。

ここに住み着いてすぐの事、川向うにお住まいの方が、長い竹を二本担いで来られ「物干し竿にしなさい」とくださり、ありがたく頂戴いたしました。また、最初の子供を身ごもっていた妻は、産気づいたとき約80メートル先のお隣（そこまでの間は田んぼ）のお婆あちゃんのところへ駆け込み、病院に連れて行ってもらいました。夕方、バス停から歩いて帰る私に、そのお婆あちゃんが二階の窓から身を乗り出して「よーい、生まれたでの、男じゃ」、「そりゃー、どうもどうも」とお礼もそこそこに病院へ自転車で駆け付けたことを思い出します。

あれから55年経ち、いろいろ様変わりいたしました。昭和47年7月には、豪雨により仁保川も濁流が溢れ、氷上橋の下の下市橋が流失、上流の育成学校の対岸、川の流れが右に曲がるあたりの土手が切れて、農業試験場の田畑一面に水が溢れました。これを契機に下市橋も拡張され、下流に向かっては左手の土手、家の直ぐ裏ですが、自転車道に生まれ変わっております。また、かつての隣までの間には数件の家が建ち、とげアカシアのトンネルだった道は拡張され舗装道路になりました。右手の土手は竹藪だったのですが、造成され住宅が並んでいます。川には井堰も設けられましたが、その結果、以前のせせらぎでなくなったのが残念です。

私共がこの氷上地区に来た頃は、100世帯ばかりでしたが、今では700世帯を超える大所帯となりました。入江さん宅のそばの下市橋から国道に向けての道路も拡張され、それに面して大きなテレビ塔が建っているテレビ山口の本社があります。その後ろ側には約1700台の車が置ける駐車場を持った「ゆめタウン山口」等もあり、なかなか賑やかなものです。11坪の家も、いろいろ手を加え、どうか家らしくなりました。

また、私も85歳を過ぎ、補聴器のお世話になっており、妻も足が不自由ですが、二人とも至って元気なもの、これからも入江さんのお役に立てるよう頑張りたいと思っております。

どうか皆様方には、今後とも入江さんをご指導ご鞭撻くださるようよろしくお願い申し上げます。

## 平成29年第1回定例会議

2月20日～3月16日

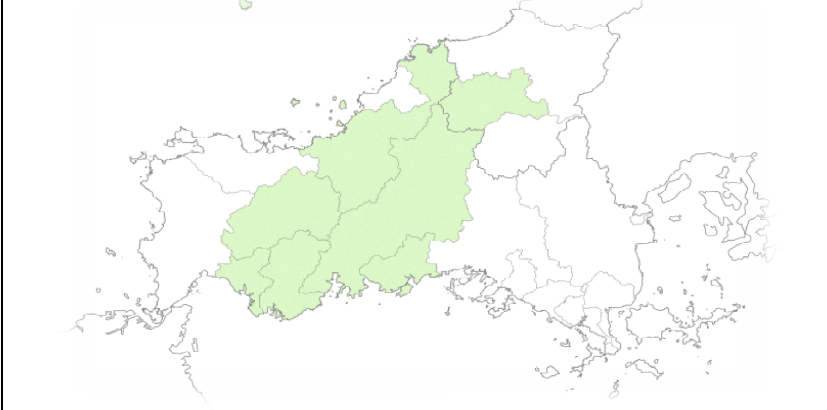
# 議会報告



### ア 山口県央連携都市圏域の形成について

山口県央連携都市圏域 (山口市・宇部市・防府市・美祢市・萩市

山陽小野田市・津和野町)



#### ① 進捗状況と今後のスケジュールについて伺いました。

答弁 渡辺純忠市長

平成27年5月に本市と宇部市、防府市の市長が共同で県央部における連携中枢都市圏の形成が可能となるような要件緩和を国に対して要望し圏域形成の意向を表明いたしました。同年6月に市議会からも連携中枢都市の対象都市圏の要件緩和を求める意見書を可決され、関係者に対しご要望を頂きました。平成28年4月に国において隣接する2つの市を中心とした西型の連携中枢都市が新たに要件として追加され本市と、宇部市が連携中枢都市となる形で県央部における連携中枢都市圏の形成が可能となりました。6月から本市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、そしてお隣の津和野町の7市町による協議を実務レベルで重ねました。11月には、関係する市町で組織する山口県央連携中核都市圏域推進協議会を設置し第1回会議において本市と宇部市が連携中枢都市宣言、地方自治法に基づき各市町が締結連携契約、そして都市圏域ビジョンなどの確認を行い。連携中枢都市宣言書を私と宇部市長の連名により公表を發表させて頂きました。14名の民間委員委員で構成される「山口県央連携都市圏域ビジョン懇談会」が設置され山口商工会議所河野会

頭が懇談会の会長に、副会長に宇部商工会所の安部会頭が選任されたところです。平成29年1月には、第2回ビジョン懇談会を開催し、委員の皆様からのご意見として、交流人口の創出につながる展開としての重点プロジェクトに対しては観光地域づくりの重要性、地域の歴史や文化、自然に対する誇りを鑑み、住民の暮らしぶりに根付いた地域資源の研き上げの重要性についてのご意見や、ネットワーク化し交流を創出するご意見さらには圏域ビジョン最終年度の平成33年には博覧会を開催することで本圏域の価値を広く発信し次世代へ継承していく取り組みを展開する等のご意見を頂きました。

2月には、第2回山口県央連携都市圏域推進協議会会議を開催し、山口県央連携都市圏域形成に係る連携協約(案)と山口県央連携都市圏域ビジョン(案)の協議をし、各市町がそれぞれの議会に対して山口県央連携都市圏域形成に係る連携協約の締結に関する協議についての議案を提出し、御議決頂いた後に3月下旬には圏域を構成する全ての市町との間で連携協約を締結し、山口県央連携都市圏域ビジョンを策定し平成29年度当初から山口県央連携都市圏域としての取り組みをスタートしてまいりたいと考えております。

#### ②方向性と具体的な取り組みについて伺いました。

答弁 渡辺純忠市長

計画期間を平成29年度から平成33年度までの5年間としており各市町が連携を図りながら圏域全体の経済成長の牽引を初め都市機能の集積・強化や、圏域全体の生活関連機能サービスの向上に取り組むことで、圏域が目指す将来像としての互いに個性と魅力を高め、交流や雇用が生まれ、あらゆる地域に定住できる連携都市圏域を実現していくこととしている。その実現に向けて、人・もの・資金・情報を圏域内でまずは循環させ、圏域外からも人・もの・資金・情報呼び込むことにより圏域内の経済が活性化され、交流産業分野を初めとした多様な地域産業の新たな雇用が創出されることにより若者などの地元定着、定住人口減少に歯止めをかけたいと考えております。

#### 8つの重点プログラム

- ◎ 経営革新・創業促進プロジェクト。
- ◎ 広域観光資源創出プロジェクト。
- ◎ 農村魅力創出プロジェクト。
- ◎ 広域交通拠点活用プロジェクト。
- ◎ 地域人材育成プロジェクト。
- ◎ 圏域情報発信プロジェクト。
- ◎ 移住・定住プロジェクト。
- ◎ 暮らしの価値創造プロジェクト。

これらの8つの重点プログラムの推進にあたりましては、29年度に関係市町の担当職員で構成するプロジェクトチームを設置し平成30年度から本格実施する取り組みについて検討を進める事としている。29年度から着手が可能な事業については本市と宇部市において予算計上しています。高次の都市機能の経済活動を支えることができる広域経済・交流圏の形成につながる広域県央中核都市づくりの考え方と方向性を同じくするものでございまして、次なる10年の挑戦としての第二次総合計画においても、この山口県央連携都市圏域をはじめとした広域連携に基づく都市圏の考え方を位置付けてまいりたいと考えております。

### イ 山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- ① やまぐち地方創生100プロジェクトの全力の挑戦に向けて、どのような思いを持って平成29年度当初予算を編成されたのか伺いました。

答弁 渡辺純忠市長

ファミリー世代につきましては子育て環境の充実として、妊娠期から出産早期における総合的な支援体制の充実。産後ケアとして宿泊型のサポートの利用に対する補助や産婦健康診査費用の助成を開始する事。小中学生を対象とした医療費の自己負担分の助成制度や小学校就学前の乳幼児医療費の自己負担の無料化の継続。保育料の経済的負担の軽減措置を拡大。待機児童の解消のため平成29年度は定員を350名拡大し併せて、保育士の処遇改善に対するしの独自支援の継続などにより保育士の確保。「教育なら山口」の環境づくりとして、2ヶ年かけて全小学校にタブレット端末等の導入。小中学校の全教室へのエアコン整備の検討等、結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援を通してファミリー世代の定住促進や出生率の上昇に繋げていきたい。

アクティブシニア世代の取り組みとしては生涯活躍のまち構想では大殿・白石・湯田・小郡・阿知須地域の重点エリアをはじめ農山村エリアなど、あらゆる地域で安心して快適に暮らすことができる全市域型タウン型としての実現を目指しているところです。市内21地域の個性と活力をともに作る協働のまちづくりを着実に進めていくことで、持続可能な日常生活圏を維持できる地域づくりの検討、小さな拠点づくりの方向性を踏まえた地域交流センターの建て替え整備、健康・福祉の拠点づくりに取り組みます。都市型温泉としての特性を生かし湯田温泉を全市域からの市民利用が可能となり、多世代の交流や定住促進につながる拠点整備の検討を進めてまいります。



若者世代につきましては、観光産業の活性化、農林水産業の経営基盤の強化と担い手育成などを展開し、中小企業の振興や人材確保の展開といたしまして、産・学・金・官の連携のもとでの起業創業支援、経営改善や事業継承の支援、新商品技術の研究開発支援、域外マーケットの拡大や海外展開等への支援などを広域的に展開し、加えて社会経済情勢に対応した市制度融資の見直し、地場産業の振興や若者のUJIターン就職希望者への支援などを実施してまいりたいと考えています。

② 山口で安心して働ける場の創出について、新年度の定住につながる「しごと」の創出について、具体的な取り組みを伺いました。

答弁 渡辺純忠市長

安心快適住まいる助成事業につきましては市内施工業者を活用したリフォーム費用の一部を商品券として助成し更なる市内消費喚起を図ってまいります。今年度は、昨年の1.5倍、約1億5千万円を予算計上させていただいています。企業誘致につきましても、分譲可能な産業団地の区画は残り2区画となっており、新たな産業団地の整備に向け具体的な整備地を決定し早急に整備を進めます。また、農山漁村が共生する地域の特性に応じた生活圈、都市圏の形成としてのまちの創生としての社会資本の整備や既存のストックの活用、広域道路網の整備などによる機能強化を進めてまいります。平成29年度におきましても地方創生の全力の挑戦を進め、山口市に住んでみたい、住み続けたいと実感できるような、そうした定住実現都市を目指してまいりたいと考えております。

.....

平成28年12月議会の質問では

「21地域の再発見と観光地域づくり！」として

徳地地域の重源上人を取り上げました。

俊乗坊重源上人は60歳から東大寺再建を始め成し遂げたときは80歳。元気で社会に貢献した人物を取り上げました。巨木を求めて徳地に杣入りした重源上人。歌舞伎の演目として有名な勧進帳というお話があります。この勧進こそ東大寺の再建のための活動でした。重源上人の知恵は3つあります。○ろくろ（峠にろくろを設置し材木が落ちる力で他の材木を上げる）○関水（水かさを上げて材木を流す。以前皇太子殿下も興味を持って視察されています。）○石風呂

（働く人々の体を癒す為に薬草を敷いて使った）奈良の東大寺南大門は今も残っています。徳地の重源上人にまつわる環境整備を含めPRすべきと質問いたしました。（答弁とその他の質問は山口市議会ホームページをご覧ください。）

#### 日本遺産の申請

平成27年の12月議会に質問いたしました日本遺産について動きがありましたのでご報告いたします。

◎シリアル型（他の自治体との横断）本市と萩市、防府市が古代から明治維新へ政治都市として栄えた歴史を象徴する文化財を一つにまとめ

「日本遺産」として文化庁に平成28年度申請。結果は平成29年4月末。

◎地域型（単独）として文化庁に申請するには

「歴史文化基本構想」の策定がなければ申請ができないので取り組むべきとの質問を致しました。

今年度新規事業として各地域の文化財や歴史資源の把握調査が実施されます。

予算は851万円です。

#### 通級指導教室の新設

昨年から2度にわたり特別支援教育における中学校への通級指導教室新設の質問を致しました。

本年度大内中学校に通級指導教室が新設されることになり、市内では4校になりました。



